

浄土真宗

仏教・仏事のハテナ？

はじめに

みなさんは、毎日のお内仏ないぶつ（仏壇）のお給仕きゅうじ（お備えそな）のとき、また、法事や突然の葬儀のとき、「あれっ、どうすればいいんだろう?」とさまざまなことで迷われたことはないでしょうか? また、お盆ぼんやお彼岸ひがん、報恩講ほうおんこうなどを迎えるとき、「この法要には、どんな意味があるんだろう?」などと疑問に思ったことはありませんか?

本書は、多くの人が知っているようで知らなかった、浄土真宗じょうどしんしゅうにおける〃仏教・仏事〃についての素朴な疑問 〃ハテナ?〃をまとめたものです。参考にしていただき、ひとつの手引書としてお役立ていただければと思います。

みなさんの〃ハテナ?〃をきっかけに、多くの方が仏さまの教えにふれていただく機縁となることを願っています。

なお、本書は真宗大谷派のならいによって記述していますが、それぞれの地域によって異なる場合がありますので、その点何卒ご理解ください。

目次

はじめに

真宗門徒の暮らしのハテナ?

門徒	8	合掌・念珠	14	お内仏のお給仕	24	迷信―日取り	36
帰敬式(おかみそり)	10	肩衣	17	鈴	32	占い	38
法名と戒名	12	お内仏の安置	20	お勤め―正信偈	34	お守り	40
				お斎	42		

浄土真宗のお寺と教えのハテナ?

宗派	46	阿弥陀さまとお釈迦さま	52	お経	58	お寺の鐘	64
お寺	48	お釈迦さまの呼び名	54	剃髪	60	仏旗	66
ご本尊・阿弥陀如来	50	お念仏	56	袈裟	62	朱印	68

葬儀・法事とお墓のハテナ？

お焼香……………	72	お墓……………	78	法事・年忌法要……………	86
弔電・弔辞……………	74	通夜・葬儀……………	81	法事での持ち物・服装……………	88
迷信―清め塩……………	76	中陰……………	84	金封の表書き……………	90

法要と行事のハテナ？

修正会……………	94	お盆(盂蘭盆会)……………	98	永代経……………	101	仏前結婚式……………	104
花まつり……………	96	お彼岸(彼岸会)……………	100	報恩講……………	102	初参式(初参り)……………	106

付録

各種相談連絡先……………	110	真宗十派の分派系図……………	115
全国教務所・別院一覧……………	110	親鸞聖人略年譜……………	116

真宗門徒の
暮らしの

ハテナ？

門徒もんと

浄土真宗の教えをいたたく人のことを「門徒」と呼びますが、「檀家だんか」と呼ぶ人もいます。どんな違いがあるのでしょうか？

門徒とは？

「門徒」とは、浄土門の徒輩ともがらという意味で、共にお念仏の教えに生きる人々のことを言います。

もともとは、広く、同じ門流もんりゅうに属して信仰を共にする人々を指して用いられていましたが、その後、本願寺第八代蓮如上人れんにょしょうにんが『御文ごふみ』（蓮如上人が門徒に向けて書いたお念仏の教えを伝えるお手紙）などで門

徒という言葉を多く用いられ、本願寺が教団として大きく成長するにしたがい、おのずと浄土真宗を依りどころとする者の呼称として使われ、定着してきました。

現在では、浄土真宗の教えをいたたく人々を指す言葉として、広く一般的に使われています。

檀家とは？

「檀家」とは、梵語ぼんご（古代インドの言葉）の「ダーナ」に由来する言葉です。ダーナとは、「布施ふせ」「めぐみを与える」を意味し、「檀那だんな」あるいは「檀」と音写されておおり、「檀家」は布施をする人・家、めぐみを与える人・家を意味します。

江戸幕府の宗教統制の一環として徹底さ

れた「寺請制度」(いわゆる檀家制度)により、人々は特定の寺院に所属するよう義務づけられました。そして寺院は戸籍台帳のようなものを作って、その家が寺に所属することを証明しました。そのことから、特定の寺院に所属して布施をする家のことを「檀家」、その所属寺を「檀那寺」と呼ぶことが一般的になりました。その後、明治政府によりこの制度は廃止されましたが、現在でも檀家という呼び名が用いられています。門徒になるには？

まずは、家族や親族の方々に真宗寺院とご縁がな
いかを聞いてみましょう。ご縁がなかった方は、お近
くの真宗大谷派のお寺に尋ねてみてください。どこの
お寺が大谷派かわからない、あるいは近くにお寺が見
当たらないという場合には、各地域にある教務所(付録
一一〇頁「全国教務所・別院一覧」参照)にお問い合わせください。



帰敬式

(おかみそり)

「帰敬式^{ききやうしき}を受式しては!?」と住職に勧められました。が、「帰敬式^{ききやうしき}」とは何でしょうか?

どのような式?

帰敬式とは、仏さまの教えを依りどころとして生きる者となることを誓う大切な儀式です。

式では、ご本尊・阿弥陀如来の前で「三帰依文」という誓いの言葉を唱和します。三帰依とは、「仏・法・僧」の三つの宝へ三宝^{ぼう}。真実に目覚められた「仏」と、その仏がお説きくださった「法」（教え）と、その

仏の説かれた法に生きる人々の集まり「僧」（僧伽・サンガ）を敬う者となり、それらを人生の依りどころとして生きていくことを誓う言葉です。

実際に髪を剃ることはありませんが、儀式執行者から、かみそりが三度、頭にあてられる「剃刀の儀」が行われます。

法名とは?

帰敬式を受式すると、お釈迦さまの「釈（釈）」の字を賜り、仏弟子としての名告りを表す「法名」（釋○○）または「釋尼○○」をいただきます。私たちの名前は、多くは親の願いがかけられて名づけられたものですが、法名は仏さまの願いがかけられた名前と言ってもいいでしょう。

なお、法名は、真宗本廟しんしゅうほんびょう（東本願寺）で選定する法名と、お手次てつぎのお寺の住職が選定する法名があります。詳しくは、お寺の住職にご相談ください。

受式できる場所は？

京都の真宗本廟（東本願寺）で受式できます。全国にある真宗大谷派の別院べついん（付録一一〇頁「全国教務所・別院一覧」参照）で大きな行事があるとき、また、お寺で受式することもできます。詳しくは、お手次てつぎの真宗大谷派のお寺、もしくは東本願寺・本廟部参拝接待所ほんびょうぶ（電話075-371-9210）までお問い合わせください。

